

## 『聖霊が臨むとき』(使徒の働き 1章 1-11節) 2022.6.5.

<はじめに> 1-2節で記者は、イエスが行い始め、教え始められたことを、天に上げられた日までのことを「前の書」で書き記したと言っています。ですから、これはその続編です。「前の書」をご存じでしょうか。それにも本書と似たような献辞が冒頭についています。

### I イエスが示された

#### ①ご自分が生きていること(3)

イエスが受けた苦しみについては、「前の書」に描かれています。十字架の苦しみと死を越えて、イエスはよみがえられました。不思議で容易に受け入れられないことですが、イエスのご自分が生きている確かな証拠を数多く残されています。見つけてください。

#### ②神の国のこと(3)

この世界と時代をどのように理解するかによって、今を見る目が変わります。この世と歴史を神が支配しておられる、と神の国をとらえ、イエスもたびたび語られて来ました。人が牛耳っているように見えてもしばしの間のみで、神は最終的に勝利を取られます。

#### ③父の約束(4-5)

イエスは天に上げられる前に、弟子たちに念押ししておかねばならないことがありました。父の約束、すなわち聖霊によるバプテスマが使徒(弟子)たちに授けられる約束です。イエスが見えなくなった後、彼らに与えられるもう一人の助け主(ヨハネ 14:16,26)のことです。

### II しかし、聖霊が臨むとき

#### ①使徒たちの願望(6)

使徒たちは「父の約束」と聞いて、いよいよ神の国の樹立に向けてイエスが動き出されるのでは、と色めきます。イスラエルの再興は民族の長年の悲願でした。ローマ帝国の支配、宗教指導者の反抗も復活で打破された主イエスならば、とでも思ったのでしょうか。

#### ②知るところではない(7)

主イエスは使徒たちの期待を否定されたのでしょうか。ただその時については、使徒たちの認識外にあることで、父が定めておられる専権事項です。そこに立ち入ってはなりません。私たちはすべてを把握・理解できなくても、父なる神に愛と信頼を寄せているのでしょうか。

#### ③あなたがたは力を受けます(8)

父の約束された聖霊が使徒たちの臨むときはもう間もなく(5)です。そのとき、彼らは力を受けると、イエスは語られます。聖霊によって与えられる力はどんな力でしょうか。その力を受けると、その人はどうなりますか。イエスはなぜ「しかし」と言われるのでしょうか。

### III わたしの証人

#### ①イエスを知る者

直接、イエスと面識がある者だけでなく、イエスの教えと御業に触れた者もその証人です。聖霊はイエスのことを私たちに思い起こさせてくださいます(ヨハネ 14:26)。私たちはイエスと同じ時代を生きていませんが、聖霊によってイエスを知っています。

#### ②目には見えなくなったが(9-10)

イエスは天に上げられ、見えなくなりましたが、使徒たちは死んで葬られたイエスがよみがえられたときのようにではありません。イエスは天に上げられ、今も生きておられます。目には見えなくなったからと言って、消えたのでも無くなったのでもありません。

#### ③またおいでになります(11)

天を見つめる使徒たちのそばに、白い衣を着た二人の人がまた現れ、「どうして…」と語り掛けます(ルカ 24:4)。天に上げられたイエスはまた来られると彼らは告げます。それまでの間、聖霊を授かった者たちによって、イエスの働きは続きます。

<おわりに> 「使徒の働き」は別名「聖霊の働き」であり、それはすなわち主イエスの働きでもあります。イエスは目には見えませんが、「主は彼らとともに働き、みことばを、それに伴うしをもつて、確かなものとされた」(マルコ 16:20)のです。今も主は私たちとともにおられます(H.M.)